

研究 成 果 報 告 書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	レジーム・アクター分析による途上国の廃棄物処理政策の展望： バンコクの事例を中心に				
研究テーマ (欧文) AZ	Perspectives of waste management policy in developing country by Regime-Actor analysis: Mainly the case study of Bangkok				
研究氏 代 表 名 者	カタカナ CC	姓)ヨシダ	名)フミカズ	研究期間 B	2003 ~ 2005 年
	漢字 CB	吉田	文和	報告年度 YR	2005 年
	ローマ字 CZ	Yoshida	Fumikazu	研究機関名	北海道大学大学院経済学研究科
研究代表者 CD 所属機関・職名	北海道大学大学院公共政策学連携研究部兼任経済学研究科・教授				
<p>概要 EA (600 字～800 字程度にまとめてください。)</p> <p>近年、日本からアジア諸国へ循環資源（廃プラスチックや鉄くずなどの再生資源と中古家電・パソコンなど中古品）の輸出が増大している。</p> <p>しかし、循環資源を巡る先行研究は、日本最大の循環資源の輸出国であり、また世界最大の受入国である中国の研究が進んでいるものの、他のアジア諸国での研究は数少ない。将来的にアジア地域で資源循環ネットワークを構築していくためには、各国の現状や規制の動向を把握する必要がある。</p> <p>本研究では、タイ・バンコクの事例として、レジーム・アクター分析を用いて循環資源の貿易を含んだ途上国の廃棄物処理政策について研究を行い、以下の成果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① リサイクル企業のミクロの調査が行われていない中で、JETRO バンコク事務所の廃家電の調査に参加し、タイでも今後廃家電の処理・リサイクルが問題となることがわかった。 ② 国内での環境汚染防止・産業保護の観点から中古家電輸入規制などタイでは循環資源の貿易に対して新たな規制が設定されている。 ③ 日系企業が循環資源の貿易を行う際、環境負荷などの汚染性の問題をクリアし、リサイクルの残渣に対しゼロエミッションに近い対策を講じた場合には、タイ政府はリサイクル技術の移転・廃棄物削減・新しい産業の創出などといった国際的な資源循環のメリットを評価し、柔軟な対応を取った。 ④ タイでは、一般廃棄物・産業廃棄物共に、各種リサイクル法の制定や経済的手法を用い、動脈産業も含んだ社会全体での廃棄物削減を目的とする廃棄物政策が議論され始め、循環型社会への取り組みが進みつつある。これらの議論は評価されるものの、レジーム・アクター分析では、行政による廃棄物問題の対処能力の向上が先決であるといえる。 ⑤ つまり、アジアに渡る循環型社会のネットワークの構築を目指すためには、日本・受入国双方に利益が出るようなリサイクル・処理企業の進出や技術移転というハード面と法制定・調査などのソフト面の両面で、途上国の循環型社会形成のために日本が協力することが肝要であるとレジーム・アクター分析から結論付けられる。 					
キーワード FA	レジーム・アクター分析	循環資源	循環型社会	途上国の廃棄物政策	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）										
雑誌	論文標題 ^{GB}	バンコクにおける一般廃棄物管理の現状と課題—レジーム・アクター分析を応用して—								
	著者名 ^{GA}	佐々木創	雑誌名 ^{GC}	年報タイ研究						
	ページ ^{GF}	21～39	発行年 ^{GE}	2	0	0	4	巻号 ^{GD}	4	
雑誌	論文標題 ^{GB}	特集リユース・リサイクルの国際化：タイー必要な実態調査と国際協力								
	著者名 ^{GA}	佐々木創	雑誌名 ^{GC}	アジ研ワールドトレンド						
	ページ ^{GF}	16～19	発行年 ^{GE}	2	0	0	4	巻号 ^{GD}	1 1 0	
雑誌	論文標題 ^{GB}	タイにおける一般廃棄物処理の現状：バンコク都のケーススタディを中心に								
	著者名 ^{GA}	佐々木創	雑誌名 ^{GC}	所報（バンコク日本人商工会議所）						
	ページ ^{GF}	印刷中	発行年 ^{HD}	2	0	0	5	巻号 ^{GD}	5 2 3	
図書	著者名 ^{HA}	吉田 文和								
	書名 ^{HC}	循環型社会								
	出版者 ^{HB}	中央公論新社	発行年 ^{HD}	2	0	0	4	総ページ ^{HE}	2 7 0	
図書	著者名 ^{HA}	Fumikazu Yoshida								
	書名 ^{HC}	The Cyclical Economy of Japan								
	出版者 ^{HB}	Hokkaido University Press	発行年 ^{HD}	2	0	0	5	総ページ ^{HE}	1 3 9	

欧文概要^{EZ}

Recently, the export of the circulation resource (second-hand goods such as used consumer electronics and personal computers and recycled resources such as the waste plastic and the waste iron) increases from Japan to Asian nations. Although there are many the researches of China, the research in other Asian nations is very few.

It is necessary for constructing the resource circulation network in an Asian region in the future to understand the current state of each country and the trend of the restriction.

The waste management policy of the developing country where the trade of the recyclable waste is included by using the regime actor analysis was researched such as case study of Bangkok, Thailand. The following results were achieved.

-While micro investigation of the recycling enterprise is very few, we participated in the investigation of electronic appliances waste by JETRO Bangkok office. As a result, the recycling of electronic appliances waste will become problems in the future.

-A new restriction such as the import restriction of used electronic appliances is set from the viewpoint of the environmental pollution prevention and the industrial protection to the trade of the recyclable waste in Thailand

-The waste policy to reduce waste in the entire actors begins to be discussed, and the approach to the recycling society is advancing in Thailand. Although these discussions are evaluated, the improvement of environmental capacity of the waste problem of the administration actor is the first thing to do in the regime actor analysis.

- Consequently, Japan needs to cooperate by both sides of hardware and software in the developing country. In hardware side, Japanese recycling and processing companies should advance and transfer technologies so that it may also become the profits of the developing country, and Japan should help legislation and investigation in software side. Namely, Japan should aim to construct Circulation based Society in Asian region.